



Vol.34 子育て・働く世代のがん患者と家族のつどい

あさがお通信

2023年4月 発行



連絡先

医療法人養和会 松本 みゆき
TEL 0859-29-5351
Mail matumoto_m@yowakai.com



医療法人養和会
松本 みゆき 看護師

今年は、桜の開花も早くきれいな花を見る機会が多くなっています。4月は進級、進学と新たな生活になる時期です。新たな目標に向けてがんばる子ども・仲間を見ると、元気・勇気をもらいます。そんな子ども・仲間の新たな出発を応援していきたいと思います。

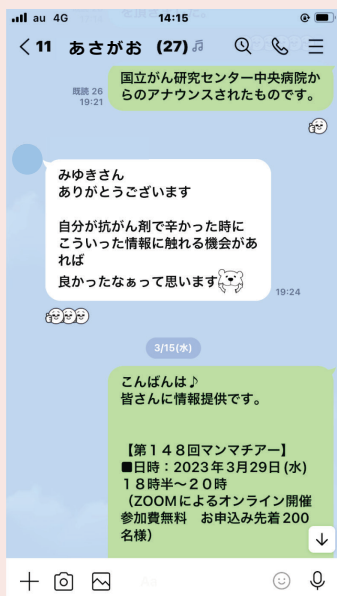


第33回 あさがおを開催しました！

対面とオンライン併用での開催で初めて参加される方もありました。話題は、お酒について抗がん剤を行った後では体質が変わったなどの話や、写真の撮り方の話で盛り上がりしました。グループLINEでの写真アップなど、会に参加している人だけではなく、グループLINEメンバーでも情報共有しました。

グループLINE

繋がることでできた化学療法認定看護師さんより届いた「働きながら抗がん剤治療をする人のためのアピランス（外見）ケアオンライン講座」や「乳房再建の最新アップデートと術後の下着選び＆バストケア」キレイな再建乳房を保つためのコツを解剖学的視点からお伝えします」といった情報を共有しています。



第34回 あさがお

日時 4月23日（日）13時～15時

場所 Zoom（オンライン開催）

第35回 5月13日（土）12時～13時30分

『あさがお・猫舌堂コラボイベント～食べる喜び花を咲かせよう～医療従事者との垣根を越えて』flower.2

－毎月開催－奇数月：第4火曜 偶数月：第4土曜－

奇数月は“ゆうがお”として夜に開催します！

20時～21時（19時～Zoomを開放・自由に出入り可）

参加希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい！

開催時、鳥取県内の新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、

オレンジサロンかみごとうでの開催は中止とし、

Zoom開催のみとなる場合もございます。



あさがおの開催などの情報を掲載しています。ぜひご覧下さい！

Facebook「いいね」お願いします！



参加者のコーナー

今月のテーマ「最近のマイブーム」



カレースープとマジックそると

SONY



御朱印集め

りょうたん



見守りカメラ

Naomi



いい景色を見ること

ミーコ

あさがお参加者、グループLINEメンバーからいただいた写真作品

次回の写真テーマ：「春を感じる一枚」

今年の春に撮ったおすすめの一枚を募集します！ジャンルは問いません。お待ちしております☆

「母の意志を継いで一歩ずつ」

養和病院 作業療法士 岩崎 大輔

「時間がある時に連絡ください。」。四年前のある日、母から1通のメールがありました。只事ではないという胸騒ぎの通り、ステージⅣの盲腸癌が見つかったという知らせでした。その二年後に再発による全身転移、追い打ちを掛けるように新たな原発である十二指腸癌が見つかり、令和4年11月、70歳の短い生涯を閉じました。

精神的に幼く甘えん坊だった私のため、母は私が高校を卒業するまで専業主婦を貫き通し、私の大学受験に合わせた47歳の時に、介護福祉士の資格を取得しました。それ以降、亡くなる4か月前まで働き続け、利用者のために尽くし、そして家族に対しても無償の愛を注いでくれました。優しさの反面、自分の意見は絶対に曲げない頑固な性格でもありました。私は20歳から実家を離れており、年に数回の帰省しかできていない状況でしたが、亡くなる1ヶ月前に姉宅に移り在宅療養中であった母を尋ねた時、私が便秘の始末を手伝った時の辛そうな表情が今でも忘れられません。「私はもうすべてやりきったから。」が最期の言葉でした。

遺品整理の中で、母のアルバムをめくっていくと、母が主人公の映画を見ている感覚になり、人は自分が主人公である人生を歩み、そして必ず死を迎えるというあたり前のことを改めて実感する機会となります。日頃の仕事でも一人一人の人生を紐解き、理解し、尊敬の念を抱きながら接することが出来ているだろうか、と自問自答を繰り返しています。これもまた、まだまだ未熟な私に対して母が背中を押してくれているように思えてなりません。気持ちの整理はまだまだつかず、耐え難い寂しさに襲われることもあります。しかし、私も人に尽くし、愛される人であれるよう、母の意志を継いで一歩ずつ、尊厳ある死を支えることができる医療・福祉のプロフェッショナルを目指し、これからも精進していきたいと強く感じています。

「がんでもかわいそうじゃない、凛と輝く女性でいよう」

ツキノアカリ伊藤容子

私は看護師ですが、現在米子市でエステサロンを営んでいます。

看護師になる前は全く別の仕事をしていましたが、一念発起して看護師になることを決め、学校に入る勉強などの準備をしようとしていた矢先に子宮頸がんが見つかりました。すでに進行がんで、術前抗癌剤、手術、追加治療で放射線と抗癌剤を受けました。抗癌剤治療の副作用で食事が摂れず、みるみる間にやせ細っていき、髪などの脱毛や顔色のくすみ、シミ、指先が黒っぽく変色するなど容姿はすっかり変わってしまい外出をほとんどしなくなりました。人に見られたら「絶対にあの人はがん患者だ」と情けの目で見られるに違いない、と思っていたからです。いくらファンデーションを塗っても隠しきれない顔色とシミ、ガリガリに痩せてしまった身体を鏡で見てはみじめだな、と思って過ごしていました。治療中は心身ともに辛すぎて、こんな身体ならいらない、死にたくないけど消えてしまいたいと考えるくらい暗闇の中でした。家族、友人にも弱音が吐けず辛さを溜め込んでしまっていました。

約半年の治療を終え、やはり看護師になりたいという思いは強く、学校へ通い看護師になりました。総合病院、クリニックで働いた後、今後の仕事と生活のスタイルを改めて考えました。私は若い時からメイクや美容に興味があったこと、皮膚科で勤務した経験も生かせると考えて今のサロンを開業しようと決意しました。看護師としての知識・経験を生かしたセラピストになりたいかったので、東京でがん治療中の女性のためのエステサロンと技術講習をなさっている女性のもとで研修を受けました。治療中でも受けていただけるオールハンドエステと治療の副作用で変わってしまった外見をカモフラージュするメイクの研修です。最初の試験は不合格でしたが、私みたいに人の目を気にして、ただ辛いだけの治療期間を過ごしている人がいるかもしれないと思うと、その人たちのために絶対合格したい！という思いで必死になって練習し2回目でも合格をいただきました。たとえがんになってしまって、治療の副作用などで見た目が変わってしまっても、自分は自分のままでかわいそうでもみじめでもないのです。過酷な治療をしていれば身体が辛い、気持ちが辛いと感じる時があるのは当然です。しかし、そのような状況の中でも楽しんで笑顔になれる時間、安らげる時間を過ごしていただきたいと思います。そして、自分らしく、輝く女性でいてほしいのです。

治療中の肌トラブル、外見の変化で悩んでいる女性へのケアと誰にも吐き出せない苦しい気持ちを吐き出せる場所として『ツキノアカリ』というお店を作りました。いつでも気軽にご相談いただけると嬉しいです。

ホーム
ページ

